



池戸一成 後援会 会報

# しぶがき通信

冬号

発行日：令和元年 12 月  
発行者：池戸一成後援会事務所  
各務原市蘇原柿沢町 1-15  
TEL：371-2749  
H P：http://ikedo.info/

## 一般質問～「被災時の初動体制の確立」

議会の一般質問で、被災時の地域における敏速な初動体制の確立のために、昨年発生した 7 月豪雨を例に挙げ、自民党青壮年議連など日頃から参加している勉強会で得た情報を基に、以下の質問をしました。

- ① 中小河川の水害危険情報も含めたハザードマップの改定はいつ行うのか。
- ② 災害・避難カードの作成を普及するための取り組みをどう考えるか。
- ③ 地域において、防災の知識を持った人材が活躍できるようにするために、どんな方策を考えているか。

災害が起きた時、住民の命が守られるためには、初めの動き（初動）が大切とされています。ただ消防署や自衛隊などの機関を待つのではなく、避難する、声をかける、連絡するなどを自分で判断し、行動しなくてはなりません。「自分たちの命は、自分たちで守る」ことを平常時から意識すべきだと考えます。

そんなとき重要になるのが地域の自主防災組織の存在です。現在、自治会ごとに自主防災組織がありますが、各地域には消防団をはじめ消防ボランティア隊、女性防火クラブ、防災推進ネットワークなど、防災に関わる様々な組織が存在しています。自主防災組織の中で、このような組織の方々がどう位置付けられ、どう連携していくのかも重要な課題であると考えます。同時に、消防団など、これらの従来からある地域の防災組織が今後も持続可能となるような形の検討も含めて、地域防災を総合的に見直す必要を感じます。



## 「ろっけん通り」の交差点完成、歩道のリニューアルも

「ろっけん通り」と「いちょう通り」の交差点の改良工事が昨年度完成し、長い間待ち望んでいた右折レーンができました。これによって、この交差点の渋滞もかなり緩和されましたね。以前はこの交差点の渋滞を避けるため、車が狭い脇道に流れ、歩行者や自転車が危険に感じることもありました。より便利に安全になったわけです。

この工事は計画から完成までに 4 年ほどかかっています。用地取得や移転補償の交渉や測量・調査、土地の分筆、設計そして工事など・・・事業の総額は 1 億 5,700 万円くらいの大きな事業でした。

今後は、老朽化してデコボコしている「ろっけん通り」の歩道を、来年から工事する予定になっています。歩道整備にかかわる地域の声を、隣接する自治会や住民の皆さん、学校などへアンケート調査を行い、より地域で望まれる形になるよう取り組んでいただいています。

## 地域の要望はどのくらい対応しているのか？

毎年、市役所には、自治会などから様々な要望が寄せられています。H30 年度は 1,409 件の要望がありました。このうち、年度中に対応した案件は 850 件、3 年以内に対応予定する案件は 43 件でした。他には、県や国などに上げるもの 144 件、懸案事項として残されたもの 200 件、現状で問題なしと判断されたもの 130 件、民間同士の問題など行政介入が不可能なもの 42 件でした。市が管轄するもので、現状で課題ありとみなしたもののうち、年度内で対応した割合は 77.8%になります。主な要望内容は、道路などが約 58%、河川など約 15%でした。

私も皆さんから要望をお聞きし、その実現に向けてこれからも頑張ります。

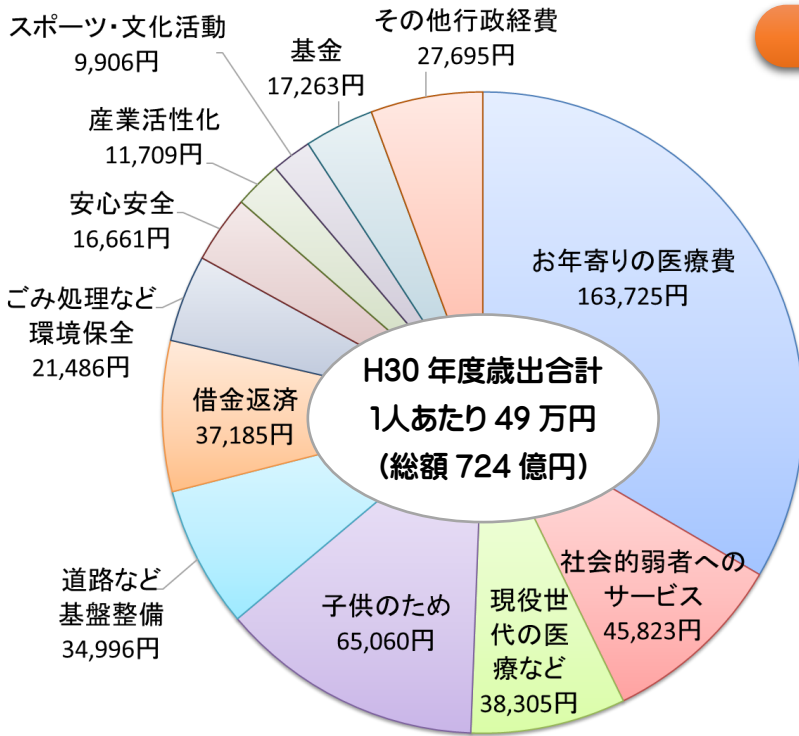


## 市民サービスは1人あたり43.5万円

市には一般会計の他に特別会計(国保会計や介護保険など)がありますが、H30年度の合計総額は724億円(市民1人あたり49万円)です。このうち、借金返済と貯金した費用を差し引いた額、つまり市民サービスに充てられた金額は644億円(市民1人あたりは平均43.5万円)となり、昨年度より市民1人あたり2.2万円ほど減りました。主に航空宇宙博物館リニューアル工事が終わったため、また、国保会計は県の主体に代わり、これまで市が負担していた様々な経費が県の負担に代わったことで計算上市民サービスの金額が減っています。

医療に充てられる費用が大きいです。それ以外では市民1人あたり保育所運営1.5万円、児童手当1.6万円、ごみ処理費など1.3万円、生活保護9千円などがあります。

なお、左図中の「社会的弱者」とは、高齢者・障がい者・生活困窮者などを意味します。



市のお金が「誰のため」「何のため」に使われたか

※金額は市民1人あたりに換算してあります。

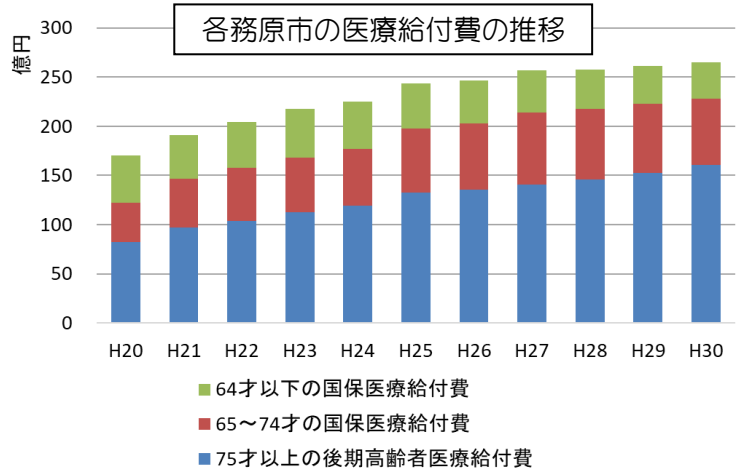
※それぞれの項目には事務経費も含まれます。

## 特集～各務原市の医療費の推移～

社会保障の中で医療費が占める割合が多いことは、昨今の報道でもよく耳にします。各務原市における医療給付費(国民健康保険や後期高齢者医療保険による医療負担)の総額の推移が右のグラフです。

64才以下の現役世代は、サラリーマンなどの割合が増えており、国保に加入している人数が減ってきているので医療給付費も減少傾向にあります。団塊世代が65才になり始めたH24～25年度に、65才以上の医療給付費が一旦急増しました。全体の中での高齢者の医療給付費の「割合」が増えているのは、社会の高齢化が原因です。

しかしながら、給付費全体の「金額」が増えていることのもう一つの大きな要因は、医療の高度化です。ちなみに、75才以上の1人あたりの医療給付費は、H20年度に64万円だったのが、H30年度には82万円になっています。以前、医師であり作家でもある里見清一氏によると、「全身に転移して治癒が望めない大腸癌に、延命効果を期待して抗癌剤治療を行うことがあります。1990年代半ばまでは有効な薬は5-FUというものしかなく、使っても平均8ヶ月の命が1年になるという程度の効果でした。これが現在では複数の薬剤を組み合わせることで2年にまで伸びました。10年で延命効果が2倍になったので、医学の進歩と言ってよいでしょう。その治療に要するコストは340倍になったそうです。」と述べています。高齢化よりも医療の高度化の方が、医療に係る負担が増大化している大きな要因なのかもしれません。



### 《新年互礼会のご案内》

◎ 令和2年1月12日(日)10時～15時 (いつご参加いただいても結構です)

◎ 池戸一成後援会事務所 ◎会費100円

お問合せ先は、371-2749(後援会事務所)まで

